

## 第2回 青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会 議事録

日 時：平成28年7月19日（火）15時00分～19時00分

会 場：市役所本庁舎2階 第四委員会室

出席委員：阿部委員，稲葉委員（現地のみ），籠橋委員，齋藤委員，宮原委員（会議のみ）  
本江委員，脇坂委員，渡部委員（計8名）

欠席委員：黒田委員，榊原委員，鈴木委員（計3名）

事務局：建設局：建設局長，建設局次長，百年の杜推進部長，百年の杜推進課長，  
公園課長，公園課主幹兼青葉山公園整備室長，同施設管理係長，  
同青葉山公園整備室主査，河川課長，同広瀬川創生室長（計10名）

文化観光局：観光課長，同にぎわい創出係長（計2名）

教育局：生涯学習部長，文化財課長，同課仙台城跡史跡調査室長（計3名）

司 会：公園課主幹兼青葉山公園整備室長

### 次 第

#### 【第1部】現地視察

- ①せんだい・青葉山交流広場
- ②国際センター駅上部（青葉の風テラス）
- ③国際センター（桜の小径）
- ④追廻地区（仮称）公園センター予定地
- ⑤五色沼・長沼
- ⑥本丸跡（仙台城見聞館，大広間遺構表示等）

#### 【第2部】会議

1. 開会
2. 議事
  - ・青葉山公園（仮称）公園センターの計画について
  - ①公園センターの役割と施設の内容について
  - ②整備イメージについて
  - ③民間活力の導入と事業者や市民活動団体との連携について
3. その他
4. 閉会

## 【第2部】会議

### 1. 開会

(建設局長挨拶)

- ・委員の皆様におかれましては、第1回懇話会を開催させていただき、本日は第2回目となります。本日は会議の前に、現地にお集まりいただき、皆さんと現地を歩かせていただきました。公園センターにおいては、各委員の皆様の思いも多数あるかと思えます。仙台に来られる観光客の方、元々仙台に住んでいる方、いろいろな期待をされている施設でございます。この懇話会の中でいろいろなご意見をいただけるものと期待しております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

(出席委員の照紹介)

(資料の確認)

### 2. 議事

○本江座長

- ・現地を見せていただき、改めて青葉城のスケールの大きさを実感し、大きくて一目で見渡せないのが凄いところでもあり、弱点でもあると思いました。観光で見に来る場所としては言えば、大きすぎて、広瀬川が堀で、山全体が城ということが、箱庭のように見てすぐに理解できるものではなく、動き回らなきゃいけない。壮大なところではあるが、観光のアイテムとしては難しい所かなと改めて思いました。歴史的にも色々なものが重層し、今の形があるという事も特徴であるかなと思いました。
- ・本日は2回目の懇話会ですので、具体的な施設の内容、役割と整備イメージ、誰がどんな風に維持・管理・運営していくのかという事についても詳しくお話ができればと思っております。活発な議論を期待しております。よろしくお願いいたします。

#### 【議事検討内容の概要説明】

(事務局による資料説明)

- ①公園センターの役割と施設の内容について
- ②整備イメージについて
- ③民間活力の導入と事業者や市民活動団体との連携について

#### 【青葉山公園（仮称）公園センターの計画について（資料2）】

(事務局による資料説明)

○本江座長

- ・現地に行き様々な角度から、沢山の話がありましたので、具体的な議論を始めたいと思います。
- ・大きく3つ、まず公園センターの役割と施設内容について、次いで具体的な（整備）建築のイメージ、最後は民間活力の導入や事業者、市民活動団体との連携、俗に言うソフト、誰がどう回すのかという事。つまり、プログラムとハードとソフトの話。整備イメージ、団体との連携については次回以降もあるということですので、今日は主にプログラムの所で、公園センターの役割、施設内容について集中的に議論ができればと思っております。
- ・改めて前回までのふりかえりがあり、皆さんいろいろ感じておられる所と思いますが、余分なものは余分、足りないものは足りないという議論ができればと思っております。すでに上がっているものでも、これはこういう意味と価値を持っているから、是非やるべきだというような、サポートのご意見も色々と具体的に頂ければと思っております。
- ・整備イメージや団体との連携、運営の仕方についても今日も少しお話を聞いておき、次回以降も改めてお話をするという形で進めさせていただければと思っております。
- ・現地を見てまいりましたので、まずは施設の役割と内容について、沢山上がっておりますが、これについて思う所がありましたら、どなたでも結構ですとお話を頂ければと思っております。憩い、楽しみ、集いのためのもろもろという事で、改めてこの資料を御覧になっていかがでしょうか。

○齋藤委員

- ・今日は視察をさせて頂き、夕方だったが非常に暑かった。
- ・整備のイメージとして水をテーマにした施設事例の話があり、事務局で準備した映像の中では、鳥瞰で見る広瀬川が非常にきれいに見え、全体像を見ると改めて凄いなと思いましたが、人の目線で見ただけでは、全く水を感じ取れなかった。
- ・今日はたまたま暑く、特にそう感じたのかもしれませんが、あの時間であの場において、整備の状況がまだ見えない状況だったので、憩いの場になる場所は、今日は暑くてたまらないなという感じがしました。もしかすると、水のイメージを何らかの工夫で見せていく必要があるのかなと感じました。

○本江座長

- ・確かに暑く、川側に寄って行くと水が見えるが、建物予定地の所からは感じられないというのがあります。それは公園の空間のデザインの中で何か対応するのかということですね。
- ・広瀬川は山の上でもあまり見えないですね。木がうっそうとしており、あまり簡単に刈れないのかもしれませんが、もうちょっと景色を見せることができたらというのは感じました。

#### ○阿部委員

- ・観光の視点や憩いくつろぎという中で、あの場所が、例えば海外で言うと、ホテルに宿泊しているお客様が、朝、ランニングやトレッキングをするということが海外のスタイルに多いので、そういう場所を仙台市内で考えると、あのエリアは非常に適しているなと感じました。
- ・今回の観光の中に、健康というか、その辺のキーワードも入れた中で、ワンストップでの情報発信が今回の公園センターで出来ればと思いました。
- ・例えばスターバックスの話がありましたけども、朝食をあのエリアに行って、ヨーロッパのようにカフェで食べたり、そこでくつろいだり、ランニングした後、トレッキングした後とか、そういう視点で考えた場合、朝、その時間にオープンが出来るのか、色々な物流の問題も出てくるとは思いますが・・・。
- ・地域のコミュニティという点で考えたら、現在、八戸の種差海岸が朝ヨガみたいなことをやっているの、健康という視点の中で、地域の方々とあのエリアを使って活動していけるようなこともあって良いかなと思います。
- ・仙台には、そういう場所がないので、東京だと皇居とか色々ありますが、上手く活用して、公園センターもそういう拠点として整備していけばという感じを今日の視察で感じました。

#### ○本江座長

- ・前回も、夜の時間も使えるよという話も出ていたと思います。それと同じように朝 5 時半にオープンと言ってどうできるのかというのはあると思いますが、お手洗いや、誰もいなくても居てもいい場所を作っておいて、お店が開くまではそこに居られるようにするとか、なるべく長い時間対応出来る施設の作り方ができるかと思っています。山に上がって下りてくると朝ごはんがとれるようになっているという使い方もあると思いますね。
- ・海外のホテルだと、お勧めのジョギングコースを紹介されますよね。仙台だと仙台城跡へ行くのがお勧めコースだとか、そういう感じに出来ると、こういう拠点もあるという事で来やすいだろうと思います。
- ・長時間対応と健康に良いヨガとか、体操とか色々という事に関わることも公園らしい事だと思います。

#### ○宮原委員

- ・資料を拝見して、そこの中に盛り込む施設のイメージは出来上がっているのかと思ったのですが、気になるのが青葉山ヒストリーミュージアムでした。
- ・周辺施設にも類似機能という事で書かれてありましたが、沢山こういう物があり、教育旅行に使えるとか、市民の色々なセミナーに使えるという事なのですが、他の施設でも何か出来そうなので、ここの公園センターでなければ出来ない事ができるのであれば作った方がいいと思うのですが、ヒストリーミュージアムもヒストリー

の何を盛り込むかという所で、お隣の仙台市博物館もありますし、そういう所からすると、かなり、コンテンツをどう考えるか難しいと思いました。そう考えると、もう少し、ここでなければ出来ないという建物とか、中身を考えた方がいいと思います。

- 一方、利用者層のイメージとして、観光客、教育旅行、市民ということでしたが、そういう機能とした一方で、コンベンションや会議とか色々なものが催される訳ですが。そういった方への施設としては、あまり大きくはないと思います。
- 会議の合間に寄って、コーヒーを飲んだり、川のせせらぎを見たりとか、ホテルに宿泊した時にそこで走るとか、そういう物でいいのかなという所ですね。
- 私としては、できるだけここが仙台の顔になって欲しいと思っています。前にも言いましたが、コンベンションとか、随分増え、外国からの賓客の方が見える事が多くなりましたが、そういう方をお迎えして、おもてなしする場というのが、結構有りそうで無いです。国際センターも、会議室の控室みたいなものはあるのですが、そこでのお出迎え、何か記念品を差し上げるとか、お食事をするのはちょっと寂しいですね。
- できれば、そういった迎賓館みたいなことができる、お城の上の大広間をイメージしたようなお部屋で、普段は一般の市民の人たちがお茶会をしたり、日舞の練習をしたりというような、ちょっととんがった施設にした方が、逆に周辺施設と競合せず、またそれを使いたいとか、そこを見たいという人たちが集まってきて、仙台らしい部分を示せるのかなと思います。
- 賓客だけが入れるということではなくて、市民にも開放する仙台の客間が欲しいなと思いました。
- そこで、ケータリングするとか、カフェがあってもいいとは思いますが、そういった大広間を模したような、お部屋を見たいとか、そこで子供たちが来て座って何か学習するというのは有りだと思います。なんとなく、そういう使い方をされた方が、どうせ作るならいいかなと思いました。

#### ○本江座長

- ミュージアムとの役割分担という話で、何か特定のコンテンツがあって、それを見るという事だと、博物館もあるし、お城そのものの事であれば仙台城跡がありますから、ここでこれを見せますという物が逆に無いから、活動本位でいくというお話でしょうか。
- その一つのアイデアが迎賓館ということですね。迎賓館というのは言葉がなかなか難しいですね。客間。ある程度ハイグレードでないと格好つかないような気もするし、それでしかるべき人にしか見せませんと言うと、なんだっていう感じでもあるので。あまりカジュアルすぎるのは合わないですしね。そのレベルの設定とかは難しい気がしますが、そのような場所を持つことも良いのではという意見でした。

- ・建築で言うと、和室は管理が大変なので、ちょっと微妙だなと思う所はありますけども、例えば、スケールの感じだけでも大広間を再現、お話としては良いですね。バリアフリーの面でも、和室だと使い方が制限される所もあると思います。

#### ○渡部委員

- ・インフォメーションセンターという事で、来訪者にどういう風に情報を提供するかという風に考えた時に、私は県外の人間なので、どうしても来訪者スタンス、ユーザースタンスで見えてしまうのですが、日によって、何か企画があったとしても、まずは、パッと行きたい所に行くと思いますね。
- ・情報として色んな事が、どの施設に行っても概要が分かるというのは、必要と感じていて、公園センターとして何か成り立つものは無いのかと考えると、そこでしか学べないものとか、知ることができるとかが核になるのかなという感じがしています。
- ・宮原先生の話もそうだなと思ってお聞きしました。先ほどの健康の活動もそうだなと思ってお聞きしていたのですが、今ある施設の中で、そこに行って得られる情報という、何か、情報として得る、インプットするという情報ですよ。それに対して、今お話して頂いたものというのは、体感とかそういうものだと思います。
- ・食事もそうかもしれないし、体を使う事、もしかしたら川に入っていくとか、色々な事があると思うのですが、そういった事はすごく特徴的だし、市民も関わりやすい、それ自体をやっている事が、海外の方にも観光の資源として見えるような感じも受けましたので、そういった整備の仕方もあるのではないかと思います。
- ・そういった観点で、公園センターとしてどうあるべきかと考えた時に、建物としてののですが、そういうコアな情報か、体験のプログラムはもしかすると市民が提供するのかもしれませんが、客間のようなそういったものは真ん中の方にあって、外周部もしくは入ってすぐの所は、市民の団体が色々な企画をして、前回だとクラブハウスみたいな話がありましたが、そういう寄り合い等を開いていても開いていなくてもできるようなものが外側にも内側にもくっついていて、周りにそういう物があって、真ん中にも少しコアな情報や体験が集まっているというようなことがイメージとして出来ています。
- ・水が感じられないという話があり、前回もセンターを川に寄せた方が良いのではという話をしたのですが、先ほどの資料にも、カフェを利用したい人は分棟でも良いのだという話がありました。
- ・そういった意味では、水を見たい、感じたい人はどどん川の方に出ていけるような設えにするということも考えられます。
- ・石垣も改めて見させていただき、あそこは河岸段丘で、平坦である事が特徴なので、そういう整備になっていった中で、河川区域ではありますが、石垣は重要な施設で残すべきだと思います。そう考えると、そこまで平坦で行き、その石垣も含めて城

の一部となると思いますので、そこまでしっかりと残した上で、水を感じたい人は  
どンドンそちらに出ていくという風なスタイルが考えられるなと思いました。

#### ○本江座長

- 全体の外構も含めての話で、外に積極的に出ていける場所があり、あの先に川があるなんて気が付かなかったと言って帰っちゃう人が出ないように、川に行くきっかけみたいなものは何かしら整備をした方が良いのかなという事がありますね。
- カフェを分棟にするのも一つのアイデアかもしれませんが、行ってみようと思えるような物があるといいのかもしれない。
- クラブハウスという話ですが、仙台には市民団体が沢山あって、すごく積極的な活動をしているということは、仙台市の自慢です。この公園でも色々な活動がボランティアベースで行われていて、それこそヨガを教えるとか、太極拳や、バードウォッチング等、いっぱい考えられると思います。そうした方々が、ここに部活でいうところの部室みたいなものがあって、しかるべき活動をしてくれる人にはそういう場所を使うチャンスが与えられて、ここに行くとし立てをかえて道具などを置いたりしながらここで皆さんを迎えたりする。
- 観光客に対してそういう人たちがサービスをするという側面ももちろんありだと思いますが、市民にとっては、ボランティア側に参加をするという、教える人の方になりたいという事も出てくると思われるので、そういう時に、あの人はどこから来ているのかよく分からないという事ではなくて、あそこに彼らの活動拠点がしかるべく用意されていて、大事にされているんだという事が感じられて、そこへ行くと、私もちょっとは鳥の事を知っているので教えたいのですが、という事があると窓口にもなるといったことが考えられると思います。
- その様子全体を観光客の人たちも見て、仙台はそういう事を積極的にやっているのだなという事が分かると、市民レベルが高いといった、そういう事が感じられるというのは、良い場所だというイメージを作ることになると思います。それがまったくの裏方という事ではなくて、活動全体がポジティブに回っているという事が表現できるような内容であると良いかなというのは、重ねて申し上げたいなと思いました。
- ここで、ランドスケープの話になりますが、今日歩いてみて国際センター駅から公園センター予定地までの道のりについて、感ずる所があれば意見をいただければと思います。

#### ○脇坂委員

- ランドスケープ的に思ったのは、せつかくの駅とコンベンションセンターとの間の広場に階段による段差があって、使いにくいと思いました。また、その横にある桜の小径も、裏道をこそこそ歩いているみたいな感じがしました。
- 周辺の施設がそれぞれ閉じられていることで、せつかく大きな城であるのに、個々

の施設が分断されてしまっているというのが、ここの青葉山公園・仙台城の一番大きな問題点かなと感じました。

- また、史跡指定地でもあり、百年の杜をやろうとしている事もあり、樹木は切れな  
いみたいな考えが仙台市にあるような気がしました。
- 実は、あの樹木がうっそうとしている感じの良さはあると思いますけど、そのせいで  
広瀬川が見えないとか、お城っぽくないとか、マイナスの要素もあると思うので  
す。
- この公園センターの場所は、仙台で一番価値の高い、広瀬川と仙台城をつなぐ極めて  
重要なポイントで、樹木が周りに生えてないということが一番良い所かと思いま  
すね。
- 追廻に住宅があったからこそ、結果的に、オープンなスペースができ、あんまり木  
が植わっていない良いスペースがあるというのが、すごく価値が高いと思いますの  
で、ここに樹木を植えて日本庭園を作るのはあまり良くないと思いますね。
- あそこに広い広場があったら何が出来るか考えると、例えば広場でヨガもできるか  
もしれないし、周りをランニングすることもできるかもしれない。もっと青葉山公  
園を利用できるんじゃないかなという可能性を、この場所は凄く秘めていると思  
っていて、広瀬川にも行ってみるとか、仙台城にも行ってみるとかいうようなこと  
が、たぶん一番ダイレクトに仙台が分かる事だと思うので、それを支えるような物  
は何だろうというと、コンビニとかがあったら便利だとか、ランナースポットとか  
があったら行こうと思うねとか、大きな休憩所みたいな所があれば団体でも行ける  
よねとか、そのような発想で、あそこの建物配置を色々組んでみると、すごくイメ  
ージが湧いてくるのかなという気がします。
- 今回の資料で面白いのは、周辺施設の類似機能というのがきちんと書いてあって、  
これを逆に考えると、周辺施設の足りていない事ということだろうと思いますね。  
例えば仙台市博物館がやっている事は、逆にもっとこういう事が出来たら良いねと  
言っている感じがします。仙台城見聞館もこういう事をやっていて、こういう事も  
出来るじゃないかと。なので、周辺施設も努力してできる場所は、ここの施設が  
そこまで頑張らなくても、良いのではないかなという感じがしています。
- 構造的に周辺施設ができない事、例えば、国有地に整備する公園だからあまり商売  
気があることはできないとか、文化財的にも商売気があることはできないとか、行  
政の縦割りの中にはあると思うので、そういったところを解きほぐして、ここだか  
らこそ、追廻だからこそ出来るというような事を上手くやって、広瀬川と仙台城を  
つないでくれると、なるほどという感じがして、さらにそれが美しければ、広瀬川  
や仙台城がちゃんと絵になるような感じになっていれば、私としてはこの施設がす  
ごく納得感があると思います。
- あくまでも主役は、公園センターじゃなくて、仙台城と広瀬川であると感覚的に思

うので、仙台城へのアクセスと利用、広瀬川へのアクセスと利用というのを中心に、他の施設では出来ないような事をはめてもらえるだけで、やっぱり仙台は仙台城と広瀬川だよね、という感じがして分かりやすいと思います。他の施設でやれる事はスパッと割り切ることがあっても良いと思います。

○本江座長

- ・役割分担の所をもうちょっとドラスティックにやるべきではないかということでした。周辺施設に対する意見がありましたけども、これまでの歴史的な経緯とか順番から言うと、私も擁護する立場でもないのですが、周りがまだどのような整備をするかぐちゃぐちゃしている中で、会議施設になったり、博物館になったり、ある程度、自己完結的にしなければならなかったというような歴史があるのでと想像します。
- ・国際センター建設時には、まさか後ろに駅が出来て、ほとんどの人が後ろから来るようになるとは思ってなかったと思いますし、博物館だって、元々宝物を収蔵する建物ですから、そんなに明け透けにはできないので、ああいうスタイルになるのは、当然かなという事もあります。
- ・色々な経緯があって、今度できる公園センターは、そういうものを改めて繋ぎ直す施設ですよという事が謳われております。これでまた第3の閉じた施設になって、一個一個は大変立派なのだけれども、相互関係がないという事をもう一回やるとすると、これは大変に具合が悪いので、やっぱり周辺施設の役割分担というのが、単純にあっちがあるからこっちではやらないとかだけではなくて、空間の構成も含めてオープンになっていて、公園センターが出来たおかげで、にわかにも風通しが良くなって、人も具体的に行き来するようになるし、色々なアクションも合同でやるものが増えるとか、そういった形に持っていけるようになるといいかと思います。そうしないと、要の位置に、大橋の橋詰ですから、昔であれば立派な門があっただけかのような所にできるゲートハウスです。東北大学がその一角を占めています。排他的な組織だと言われると返す言葉がありませんが、図書館もオープンにしようとか頑張っているところですし、萩ホールも作りまして、市民に良く利用して頂いております。この公園センターが出来たおかげで一挙に青葉山全体が公園として認知されるというストーリーをやるのだという事だろうと、今日、視察して改めてそう思ったということです。
- ・僕がお殿様だったら、これでは戦争が出来ないからすぐに切れって言ったと思いますが、川が見えてないと、橋を渡ってくる敵の軍勢が見えないのでは話にならないから、こんなではダメだと言うと思うのですが、そんなことも踏まえて、少し樹木も切っても良いのではと思います。オープンにして色々つなぐものを作れる機会だから、そのつもりで積極的な構えと、相互連携をやってもらいたいと思いました。

#### ○籠橋委員

- ・逆に戦略的な理由で、殿様は樹木を切らないと思います。山である事を利用した城、山城です。脇坂委員と逆の事を言ってしまうと、水とか、広瀬川というのは確かに堀の役割をしているという事は間違いないと思うのですが、広瀬川を重視した形というのはどうしてもなじめなくて、それは段丘の上に上がっている、それが石垣をもって区切られているということで、城そのものの性格があそこで終わっているということなのです。
- ・江戸幕府に対して城はどこまでかという境界の所が、あの辺りで、城郭はここまでは、そこまでが仙台藩として整備しなければならない区域だというように分けたかと思います。
- ・となると、あの所までが仙台城としての一体性、仙台城は山の城である、山の中に築かれた城である、そうすると、申し訳ないのですけれど樹木はなければいけない。元々の歴史的な環境として樹木がある。それが現実に、追廻に片倉屋敷があった時にも、あの中には森があって、最後の写真などを見ても、森林が形成されています。要は杜の都の杜とは何かということで、それは屋敷の中に植わっている林が、いわゆる屋敷林がその景観を形成しているという事です。その最たるものが、既に無くなりましたけども、水沢屋敷とか片倉屋敷跡などが展開していて、その上にさらに総大将である伊達家の本丸がそびえているという風な城としての構造だったという考えなのです。
- ・歴史性を考えずに整備して良いのでしたら何とでも樹木を切っても仕方ないと思いますけども、たぶんそうではないだろうと思いますので、その点はおろそかにはできないかなと思います。そういう意味で、景観と遺跡自体の保護というのも十分に考えていかななくてはならない。その点では公園の整備の段階でしっかりと、史跡・遺跡としての保全というのは十分に考えて頂きたい。
- ・この外郭の広瀬川沿いの石垣の所までが全て文化財を保護する範囲ということになっているはずですので、基本部分はお任せをしてもかまいませんが、そこを踏まえての史跡・遺跡としての保全・保護という所は十分足るものとしてやっていただきたい。もちろんその内側の区域というのはその保護の中に入ってきますので、その部分は何を建てるにしても、地下に埋蔵されている遺跡等に配慮しながらやっていかなくてははいけないだろうと、改めて現地を拝見させて頂いてそういう思いを強くした所です。
- ・また、あそこが開けているというのは、色々な歴史というものがありますので、それをどちらに評価するかというのは考え次第だと思います。そういった所も是非、公園センターの設置にあたってよく考えて頂きたいと思います。

#### ○脇坂委員

- ・私は文化財保護の仕事もずっとやってきましたので、遺跡を壊せということと言っ

ている訳では全くありません。それは私の名誉をかけて言いたいと思います。

- ・私は考え方の話をしたかったのです。今の計画は、凄く足し算の資料になっているので、ポイントが分かりにくかったんですね。足し算にするとポイントのぼけた施設が出来がちなので、本当に公園センターは何のために作るのかという所をもっとクリアにして欲しいという事で、あえて少し挑戦的な言い方をしていたつもりでした。
- ・私は追廻地区の遺構については入間田先生の委員会の中で3年程携わっていらしたので、十分、分かっているつもりです。青葉山公園の樹木のあり方というのも遺跡指定地としての価値というのも分かっているつもりです。石垣についても、あの周辺の保全の修復をずっとやってきて、それすら甘いじゃないかと言っている立場でありながら、一方で、この公園センターを作る時と言うのは何のために作るのかという所を、あれもこれもじゃなくて、もう少しクリアにしてもらった方が、施設として良いものになるんじゃないかという思いで挑戦的な言い方をしただけですので、誤解のないように言っておきます。

#### ○本江座長

- ・私もちょっと乱暴な言い方をしまして申し訳ありませんでした。あそこが今、たまさか開けているのは歴史的な経緯があってということでもありましたから、元の屋敷に戻ると、もう少し樹木があるのだと思います。
- ・しかし、いったん開けたという事は都市的な、歴史的な事実ですので、そこは開けているということを活用する使い方もあるとも思いますし、そこは大きく言わなきゃいけないかなと思います。
- ・今回の議論のフレームを超えるかもしれないですが、視察の時にテニスコートの奥の方まで行き、引き返してくるというルートを行ったんですが、テニスコートもさることながら、山側の屏風のような崖がものすごく、景色としてはなかなかの迫力がある領分のような岩があって、あそこは木が生えないので、岩盤が露出していて、なかなかインパクトのある見え方をしていましたが、あんまり雰囲気は持っていないような気がしましたので、改めて、各論で樹木を切る、うんぬんの話は別として、全体として山があって川があって、川から頂上までの間のこの一連のつながりを生み出すようなこととして、公園センターがある。川との関係ばかりをついイメージしがちですが、振り返ると山があって、崖を抱いていて、その上にお城があってという大きい断面の構成の真ん中に今いて、振り仰いでも面白いし、川の方にも、あるいはその先の城下町の方にも視線を向ける、そういうダイナミックな場所だということとはとてもよく分かったと思います。
- ・何かそういう構え方があると良いし、実際に活動のイメージもここに来て閉じていくのではなくて、阿部委員が最初に言われたように、山に上がっていかとか、川に下りていかとか、テニスコートの先から今は門が閉っていましたが、溪谷の方に

入っていく道も、本当であればみんなが行けるようになっていたらいいので、そういったことにどんどんネットワークが広がって行って、みんなが行き来をする、そういうハブになるという事が上手く織り込まれていくと良いと思いました。

- 言葉遣いの問題かもしれませんが、計画の概要のコンセプトになっている所が目的施設としての言葉遣いが多いので、まずは来るけども、ここから公園全体、お城全体を楽しみに行くための、ゲートとなり、そういう言葉も入ってはいますが、もっと強く押し出されても良いのかなと感じました。
- 樹木については、素朴に眺めの事だけで申し上げると、もう少し梢の部分の切って、眺めがよくなれば眺望ポイントとしての価値は随分上がるだろうと思いました。
- 反対に、何故切ってはならないのかという事も歴史的に説明することがあると、みんなが納得できるかなと思いました。少し高い所に上がれると印象が違うかも知れませんね。

#### ○渡部委員

- 自然の崖についてですが、冒頭には非常に広がりがある、一掴みに出来ないという側面があるという話がありましたが、図面で見ると、凄く奥行きのある場所で、一番奥に崖があり、こういった部分を、体感的にできれば良いなと思います。
- 例えば、現地視察の最後に見た本丸広場の仙台城見聞館にあった仙台城や青葉山の地形などが立体的に分かる模型がありました。石見銀山等にも模型があつたりしますが、ここの歴史、人間が、この場所をどう使ってきたかというよりも以前の、この場所の成り立ちとしてどうなっているかというのを、もう少し体感的に、ダイレクトに分かると、そこから刺激された自然の散策とか、色々な市民の活動の奥行きも出ますし、そういったことが分かるような場所となるよう、そういう情報を入れて頂きたいと思います。

#### ○本江座長

- パノラマのための施設という言い方が違うかもしれませんが、何か特定の物を見る為の施設ではないと思います。その広がりを感じて、じゃあ出かけようかと思うようなものがあると良いかと思いました。

#### ○阿部委員

- 先ほど宮原委員から迎賓館という話がありましたが、インセンティブな学会だとかイベントがあつた場合、海外は博物館とか美術館でパーティーを行うことは、そんなにハードルは高くないです。しかし日本では異常にハードルが高く、我々がお願いしてもなかなか出来ないということがあります。そんな中で、いま、平泉の中尊寺や出羽などという本物の場所でユニークベニューを出来ないかと、いろいろ取り組みをしております。
- 運営の話になるかもしれないですが、インフラも含めて公園センターはどういう役割で、どういう建物にしますかと言った時に、ユニークベニュー等に対するハード

ルがあまり高くなく、何でも応用が利くものをきちんと踏まえた中で、しかし、ただ単にユニークベニューにということでもなく、センターとしての役割や、施設の内容、レイアウトもしっかり考えて計画していった方がいいのではないかと思います。

- ・意外とそういう物がこの辺に無く、宮城県の場合は知事公舎や東照宮等があるのですが、実質、開催するまでのハードルが高く、結構出来ない事があります。最初からそういう制限などを設けない施設にした方が、インバウンドや観光、ましてや国際センターといった施設のあるコンベンションエリアでの顔になると思います。
- ・特にあそこのエリアは仙台の顔になっています。ましてや都心にあり、東北大学があり、東北大学はキャンパスツーリズムということで学校を開放していますので、そういった東北大学とも連携して行けば良いのではと思います。
- ・朝の利用の話もしましたが、仙台の青葉山のエリアだから非常に利便性があり、ホテルとも近いし、市内とも近い、そこを踏まえた、仙台城と広瀬川の接着剤だけじゃなく、あのエリアの本当の意味での接着剤の核となるという形になっていけば、非常に面白い、興味深いエリアになると思います。そういうこともきちんと書き込むというか、考えていただけると良いと思います。

#### ○本江座長

- ・ユニークベニューというと、ヨーロッパなんかだと修道院やお城など、そういう場所を実際に借りて、その中庭でパーティーをしたり、展覧会をしたりといったことが普通に行われています。もちろんそういう努力をされているのだと思います。
- ・その意味で言うと仙台は戦後丸焼けになっていて、建築物という意味だとユニークベニューになるような物はほぼ無い。道路も丸ごと変わっていますので、その意味では、お城も残念ながら広間は無いのですが・・・。
- ・ユニークベニューという言い方を拡張しないといけません、今日改めて思ったのは、ランドスケープというか、山の形と石垣の形や、そこへ通って行く道の通り方だとか、山の広がり全体の持っているユニークさ、みたいな事は確かにあると思います。
- ・新しく作りましたので、これをユニークベニューとしてどうぞ、といっても作るもの自体がユニークベニューになるというのは原理的に出来ない、山全体がユニークベニューであるという事を言うような、利用できるような構えですね。

#### ○阿部委員

- ・エリアとして考えると博物館も仙台城跡もあります。しかし、なかなかその場所では出来ない、逆にエリアとしてやれる場所というのが、公園センターとなっていけば非常に面白いと思いましたし、あのエリアも魅力が出るかと思っています。

#### ○本江座長

- ・もっと積極的に、公園全体、山全体を使ってみようという事の意味、求め方がある

のだと思います。そういうことも説明していただいた資料の中に入っているとは思いますが、これがファンクションのリストになっているので、中で何をしますかという事のリストになっている所が少し物足りないというか、そういう感じかもしれません。

#### ○宮原委員

- ・公園センターの方向性の中で、かなり機能が盛り込みすぎというか、てんこ盛りになっていると思います。他の施設で代用できる所はしていただくという事で、もう少し整理をしてもらいたい。カフェ、それからデッキにしても、今、国際センター駅にも凄く素敵なカフェがあって、広瀬川を見に行くためのデッキもあります。ああいう所もきちんと利用していくという事も重要だと思います。
- ・また、水辺の高さとかが違うのかもしれませんが、デッキやカフェも、国際センター駅に出来た空間と、どういう風に競合せず、お客さんが散らないよう両方とも営業が上手にできることを考えていくと、既存の施設の中にある同じような施設とどう違って、どう両方にお客さんが来て頂けるか、利用者の方が利用しやすくなるかという視点も考えて頂かないと、また同じようなものができて、市民センターのような施設になるのは嫌だなと思います。是非そこは特出して欲しい部分だと思いますので、うまく整理をしていただきたいという事です。

#### ○本江座長

- ・あれもこれもと、だんだん積みあがってきた感じがありますので、整理して良いのではないかと思いますね。

#### ○脇坂委員

- ・現地視察に行つてすごく良いなと感じたのが、やはり大橋です。素晴らしいデザインと、大橋の持つゲート性、ここを渡ると青葉山だという感じが素晴らしいと思います。
- ・仙台市内には色々な橋がありますが、大橋はデザイン的にも場所的にも圧倒的に素晴らしいので、この計画で大橋は単なる入口、道路と一緒に扱っているように感じられるので、大橋のデザインと、建物と広場を一体的にデザインするともっと良く感じました。
- ・そういう意味で言うと、この計画自体が、片倉屋敷跡の復元みたいな所からスタートしているように感じましたので、すごく大橋とのつながりが良くないと思います。
- ・大橋は大橋で、歴史ある良い橋だと思いますので、その良さと、橋詰の空間の広がり、公園センターのゲート性というような所を意識した計画にすると、もっと建物の意図が分かるような感じがしました。

#### ○渡部委員

- ・大橋を渡っていく時の見え方というのも、すごくシーケンスとして、公園センター、そして青葉山へと続くような見え方が凄く良いと思いますし、大橋自体も絵に

なる。

- ・大橋の下の河床の独特の広瀬川の様子や、大橋の昔の橋脚の跡とか、見るべきものも沢山あるという事ですので、この大橋を歩いて渡っていかないと損だというくらいのアプローチの考え方もあるのかと思います。
- ・今の計画では、どうしても最寄りの駅が国際センター駅になっていますが、もう少し多様な公園へのアクセス、車だけではなく、徒歩、自転車、色々あるという事と合わせて、ここの風景づくりというのはすごく重要だと思います。

○本江座長

- ・西公園駅で降りて歩くルートをお勧めするという考えもありますね。

○脇坂委員

- ・国際センター駅からのルートは、どうしても裏口から入っているような感じがしてしまう。これがメインルートだといくら考えても、1度道路を横断しなくてはいけない、国際センターの裏側を回らなくてはいけない、というのでは限界があるような気がします。なので、大橋から進めた方が、納得感があるかなと感じます。

○本江座長

- ・必ず一番近い駅から歩かなければいけないってことはないですからね。
- ・売出し方だと思います。国際センターとの関係もあるので、こちらから行ってくださいっていうのもあるかもしれませんが。
- ・仙台市の全体の観光の事から言うと、西公園駅で降りて広瀬川を渡って行くと公園があって、その先に上がっていくとお城があるというのは、シークエンスとして良いかもしれませんね。

○渡部委員

- ・ビューポイントということで言うと、橋を渡る前の住宅街の辺りから川越しに青葉山を仰ぎ見るという視点も、こちらで降りて行かないとなかなか見られないと思いますし、石垣もそうでないと見られないというのがあります。

○本江座長

- ・公園センターに行ってから、この先に石垣がありますという情報を言わなくちゃいけないのと、みんなで見ながら来るというのではアプローチのニュアンスが随分違いますからね。

○宮原委員

- ・ここへ沢山の人が寄って来てもらうということで、地下鉄を前提にしているとは思いますが、たとえば教育旅行とかで子どもたちが来た時に、車両乗降エリアで降りて、その後バスはどこに停めるのでしょうか。
- ・国際センター駅の後ろ（せんだい青葉山交流広場）に停めて、あとは自家用車で来た方は、やっぱり国際センター駅の後ろ（せんだい青葉山交流広場）で降りて、歩いてまた来てもらうという形でしょうか。車の動線はどうなりますか。

○事務局（公園課主幹兼青葉山公園整備室長）

- ・今のところ一般乗用車に関しましては、この車両乗降エリアで降りて頂いて、運転手だけが、奥の方に整備する駐車場への経路がありますので、そちらを考えております。ただし、公園センターが建設する年度には、駐車場がまだ整備されておきませんので、基本的には国際センター駅の北側の部分（せんだい青葉山交流広場）を利用して頂くこととなります。バスに関しましては、乗降エリアの奥に大型バスの乗降エリアがあります、ロータリーみたいな形になっていますので、そこを回って頂くという考えでこの図はなっています。
- ・現時点で具体的に決定したものではございませんが、基本的には公園センターにお越しのお客様は、地下鉄に乗って来られる方を考えておりますし、一般のお客様はせんだい青葉山交流広場駐車場、そちらに停められて来られるという形で考えております。
- ・その他には自転車で来られる方というのも想定しております。ダテバイクというのも仙台市で行っていますので、そういったポートを設置出来るかと考えております。

○籠橋委員

- ・駐車場のことで一つ心配があるのですが、現在、追廻の区域に仙台市博物館の臨時駐車場があります。仙台市博物館で、とても大きな企画展、特別展を開催した時に、本館の駐車場はあっという間に満車になり、あふれた車両の駐車場所みたいな状況になっています。そういう人の動きが現実の所で起こってきますので、国際センター駅北側の駐車場（せんだい青葉山交流広場）を使ってくださいというのは分かりますが、現実、そういう使い方の要望が沢山あるので、出来ればもう少し柔軟に考えて頂きたいと思います。
- ・あのエリアの渋滞が発生すると、いつも巻き込まれているものですから、考え方は分かるのですが、是非、そういった現状があるということにも少しご配慮いただきたいと思います。

○本江座長

- ・良い展覧会がやっていけばいいほど、ここに車が集まってしまう事は、事実として起きていますので、ある程度配慮は必要かと思えます。
- ・整備イメージの具体的な話について申し上げますと、やはりデザイン側をきちんと決めるプロセスをとるという事が、市民の皆さんにとって納得のいく整備イメージになる事に繋がろうかと思えます。
- ・建築の設計だと色々な進め方があり、メディアテークみたいな、フルスペックの建築コンペというのもありますし、最近では作品や設計案ではなく、担当できる人を選ぶ、実績と基本的なアイディアベースで行うプロポーザルなど色々な方法がありますので、それがスケジュールや予算などの中で、どの方法がベストなのかというのは、また非常に専門的な判断が必要となります。それも含めて、是非、きちんと

した設計者選定プロセスをセットして頂いて、しかるべきワーキングプラン等を作り、ふさわしい体制で、市民にもオープンにして上手くやるとコンペやプロポーザルのプロセス自体が公開でき、期待を高めていくような方法につながっていきます。是非それをして頂いて、建築家の持っている想像力を発揮する舞台をきちんと用意していただけると良いかと思えます。

- その中で、案としてすごく歴史的なデザインが出てくる事もありますでしょうし、すごく現代的なものが提案される事があると思えます。どちらが正解ということはないのですが、あらかじめ、瓦屋根にしてくださいというような具体的な案を言うてしまう事は良い方法では無いと思えます。
- この場では非常に抽象度が高い議論をいたしました。矛盾している事も含めてこうであって欲しいという事を伝え、それらを統合出来るような建築はこういうものだ、というものを考えてくれる建築家をきちんと選び、想像力を発揮してもらっていただきたいと思えます。
- ユニークベニューの話で、新しく建てる建物はユニークベニューにならないという言い方をしましたが、良い現代建築はユニークベニューになるという例もごございます。そういう建築を見に来る人というのは必ずいます。
- 仙台のメディアテークはまさにそういう建物で、建築デザイナーはみんな日本に仙台という街があり、メディアテークというすごくユニークな建物が建っているという事は知っていますし、みんな見に来ています。そのような役割を果たせるような建築は現代でも作り得るので、何かチャレンジをきちんとして頂き、プロセスときちんと踏む事が大事かと思えます。

#### ○阿部委員

- カフェとしてスターバックスなど大手コーヒーチェーン店の例があるのですが、今は東南アジアも含めて台湾も中国も大手コーヒーチェーン店がたくさん出来ています。今回はやはり、大手コーヒーチェーン店というブランド的な発想じゃなく、地元のコーヒー専門店のような、建物と同じようにユニークな感覚で進めるのも良いかと思えます。
- あそこに行けば地元の本当においしいコーヒーが飲める、カフェがあるという発想もきちんと考えた中で、ある程度の運営の拠点にしていくという考えた方が良いかなと思っています

#### ○本江座長

- ボランティアの人たちが活躍する場を作りましょうという事と関わっていて、サービスを買ってきて誰かにやってもらうという事ではなく、ここで育てるという手間はかかりますが、望んでもできない都市も多い中で、仙台はローカルにやっつけっしやる方が本当にいますので、それをうまくオーガナイズして、仙台に来たので初めて味わえる物がある、受けられるサービスがあるというのを組み立てられれば

良いというのはありますね。

○宮原委員

- ・整備イメージやデザインの話になりますが、仙台に来た方々が、仙台といえば杜の都と言った時に、果たして杜の都とはどこなのだろう？ どのようなものなのだろう？ というのがほとんどイメージ出来てないように思います。
- ・先ほども話がありましたが、屋敷林がそうなのですが。杜の都たる機能を持った屋敷はもう無くなっていて、例えばそういうものをきちんと復元できるような形のデザインで、庭にしても食べられる樹木だとか、垣根とか、仙台の杜の都の一軒分にしかならないかも知れませんが、しっかりと、これが杜の都だということが伝えられて、それらを利用した暮らしがきちんとあるのだという事が、ここに来れば説明できるし、学ぶ事ができる、仙台の自給自足性というか、武士から、農村に行けば居久根があるわけですが、そういった暮らしを学べるような形でのデザインであっても良いかなと思います。居久根の中に屋敷がちゃんとあるという、そういうのも一つは見せてあげられたら、仙台はこういう場所だということを示せると思います。まさにその場所がここであるという事だと思います。
- ・そういうような形があれば、ユニークベニューにもなり得ると思います。

○本江座長

- ・公園課としては管理、手間が大変になるかも知れませんが、緑全体をよく管理するというのはとても難しい事ですので。結構チャレンジだと思います。

○宮原委員

- ・そういったお庭の手入れをする人たちは市民団体とか、生活で使っていた場所であるわけですから、そういう所で市民の人たちが使うとか、梅をもちで梅干しを作るとか、そういうやり方も良いかと思います。

○本江座長

- ・積極的に世話をしてくれる人たちのコミュニティを育てる事とセットでやるということですね。
- ・議事としてはこれで終了いたします。

### 3. その他

○事務局（公園課長）

- ・次回は、9月上旬を開催予定としております。第1回、第2回の内容を踏まえて資料を整理し、お示しをいたします。
- ・次回の懇話会まで、追加でご意見や参考資料等がある場合は、ご連絡をお願いしたいと思います。

○本江座長

- ・これで、全ての議事は終了とします。

#### 4. 閉会

○事務局（公園課主幹兼青葉山公園整備室長）

- ・以上を持ちまして、第2回青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会を閉会いたします。

○事務局一同

- ・ありがとうございました。

(以上)